

2018 年 3 月実施の卒業生アンケート集計結果について

本報告は、卒業生アンケートの結果から本学での学びを通して得た学修成果について分析・評価するものである。アンケートは本学での学びに関する総合的な内容であるが、その内、本学英語科の卒業認定・学位授与の方針が示す卒業時までには獲得すべき能力と密接に関わる学修成果に対する回答の分析を以下に記す。

なお、卒業生アンケートは学生の主観にもとづいて回答されるため、客観的にその達成度を測定したデータは一切含まれていない。また本報告は、本学が年次アセスメントポリシーに則り 2019 年度にまとめたラーニングアウトカムズ（学修成果）アセスメント報告書より抜粋し、一部編集したものである。

対象者：2018 年 3 月卒業生 227 名 アンケート回答者：202 名 （回答率 88.9%）

なおアンケートへの回答には以下の 5 つの選択肢を用意し、学生にはその中から一つを選ぶかたちをとっている。

5. 非常に同意できる
4. 同意できる
3. どちらとも言えない
2. 同意できない
1. 全く同意できない

以下の 5 項目が具体的な卒業認定・学位授与の方針（DP）である。

DP1：キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。

DP2：学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。

DP3：自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。

DP4：専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。

DP5：地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。

本学での学びを通して得た学修成果について ※右端（「5. と 4. の合算」）の欄の（ ）内は 2017 年度のデータ

Q1. 英語で表現された資料を読み、聴き、内容を理解し、資料を収集し、分析・思考し、英語による多様な自己発信、自己表現、人間関係の構築ができた。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	58	115	25	2	0	2	173
%	29.0%	57.5%	12.5%	1.0%	0.0%		86.5% (88.1%)
Q2. 英語を用いた論説（essay）や論文（academic paper）の作成を通して論理的思考にもとづいた表現ができた。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	49	118	28	6	0	1	167
%	24.4%	58.7%	13.9%	3.0%	0.0%		83.1% (80.0%)
Q3. 英語圏の歴史や文化、社会現象を理解し、その文化圏と日本との関係を比較考察する視野を持つことが出来た。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	76	102	22	1	0	1	178
%	37.8%	50.7%	10.9%	0.5%	0.0%		88.6% (88.1%)
Q4. 英語を聴く力が向上した。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	89	91	20	2	0	0	180
%	44.1%	45.0%	9.9%	1.0%	0.0%		89.1% (91.4%)
Q5. 英語を話す力が向上した。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	66	77	52	7	0	0	143
%	32.7%	38.1%	25.7%	3.5%	0.0%		70.8% (80.5%)

Q6. 英語を書く力が向上した。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	63	92	42	5	0	0	155
%	31.2%	45.5%	20.8%	2.5%	0.0%		76.7% (80.0%)
Q7. 英語を読む力が向上した。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	72	94	32	4	0	0	166
%	35.6%	46.5%	15.8%	2.0%	0.0%		82.2% (83.8%)
Q8. 英語以外の専門知識が向上した。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	83	96	19	4	0	0	179
%	41.1%	47.5%	9.4%	2.0%	0.0%		88.6% (87.1%)
Q9. TOEIC のスコア向上に満足した。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	55	56	63	25	3	0	111
%	27.2%	27.7%	31.2%	12.4%	1.5%		55.0% (60.0%)
Q10. キリスト教ヒューマンイズムの科目（人間学等）を通して人間観や倫理観を深めた。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	58	83	55	4	0	2	141
%	29.0%	41.5%	27.5%	2.0%	0.0%		70.5% (73.7%)
Q11. 教養・知識が向上した。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	73	107	22	0	0	0	180
%	36.1%	53.0%	10.9%	0.0%	0.0%		89.1% (88.9%)
Q12. 論理的思考能力が向上した。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	63	113	24	2	0	0	176
%	31.2%	50.5%	10.4%	0.0%	0.0%		87.1% (81.5%)
Q13. プレゼンテーション能力が向上した。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	79	102	21	0	0	1	181
%	39.1%	50.5%	10.4%	0.0%	0.0%		87.1% (87.1%)
Q14. 英語科目以外の科目（教養・専門等）で情報収集や分析の方法が向上した。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	69	107	25	1	0	0	176
%	34.2%	49.8%	12.4%	0.5%	0.0%		87.1% (83.4%)
Q15. 自ら学び、探求していく習慣を形成した。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	75	100	26	0	0	1	175
%	37.3%	49.8%	12.9%	0.0%	0.0%		87.1% (86.6%)

Q16. 世の中の多様性に対する認識を深めた。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	89	93	19	0	0	0	182
%	44.3%	46.3%	9.5%	0.0%	0.0%	1	90.5% (90.4%)
Q17. 他者への敬意を深めた。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	90	94	16	0	0	2	184
%	45.0%	46.5%	7.9%	0.0%	0.0%		91.5% (88.0%)
Q18. 授業内のグループワーク活動に貢献した。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	70	99	30	1	0	2	169
%	35.0%	49.5%	15.0%	0.5%	0.0%		84.5% (84.7%)
Q19. 授業内のグループワーク活動においてリーダーシップを発揮した。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	51	70	63	17	1	0	121
%	25.2%	34.7%	31.2%	8.4%	0.5%		59.9% (59.5%)
Q20. サービスマナーを通して社会奉仕の精神を理解した。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5. と 4. の合算
人数	68	66	39	13	10	6	134
%	34.7%	33.7%	19.9%	6.6%	5.1%		68.4% (65.7%)

全部で20問ある「学修成果関連」の質問の中で、英語および英語圏の事象に関連する質問項目(Q1-7、およびQ9)において、「5. 非常に同意できる」あるいは「4. 同意できる」と肯定的な自己評価をした割合がQ5(英語を話す力)、Q6(英語を書く力)、Q9(TOEICスコアの向上)を除き、すべて80%を超えた。この結果から、2018年3月卒業者は昨年の卒業生同様に、英語力に関して一定の成果を上げたと感じている学生が大半であったことがわかる。80%を越えなかった質問のうち、「話す」、「書く」という英語の産出能力(表現力)はともに70%台であった。同様に「TOEICスコアの向上に満足している」割合は50%台中盤であった。学生の目標はさらに高いと考えられる。これら3つの質問に対する結果は、2017年度のデータとの比較においてその割合が低下している(Q5「話す力」は昨年度比およそ10%減)。ただし、別の質問(Q1とQ2)でも英語による表現力について尋ねているのだが、ともに達成感が80%を超えていることから、他の英語の能力に比して表現力だけが特段、身についていないという解釈は正しくないだろう。なお、2018年度からは英語スキルズ科目にTOEIC S&W 対策のための科目が新たに加えられ、また上智大学特別編入学試験にTOEIC S&W のスコア提出が義務付けられたことから、2月に短期集中型のS&W対策に特化した講座を開講した。さらには2019年度から英語のe-learningプログラムが一新され、学生は新たにTOEICに特化したスピーキングとライティングのトレーニングを受けることができるようになっている。このような改善により、学生の英語による表現力が向上することを期待するが、同時に、どのようなかたちで学生のe-learning学習とカリキュラム(英語科目)とを結びつけるのが良いか、引き続き検討していく必要がある。

英語関連以外の設問(Q8、Q10-Q20)に関して、80%を下回る達成度にとどまっていた項目はQ10「キリスト教ヒューマンズムの科目(人間学等)を通して人間観や倫理観を深めた」(70.5%)、Q19「授業内のグループワーク活動においてリーダーシップを発揮した」(59.9%)、Q20「サービスマナーを通して社会奉仕の精神を理解した」(68.4%)の3つであった。Q10に関しては2017年度から3.2%下がっている。これらの項目は昨年度のアセスメントでも比較的達成度が低いという結果であった。「キリスト教ヒューマンズム」は学生たちが必修科目(「人間学I」として学んではいないものの、それ以外には関連科目があまりないために、DPが示す他の学修成果よりも体系的に、そして発展的に深く学ぶ機会が少ないことが関係しているのかもしれない。Q19「授業内のグループワーク活動においてリーダーシップを発揮した」については、昨年度のアセスメントでも言及があったように、リーダーシップを発揮する場や機会がそもそもなかったという場合には、この結果は誤解を招く可能性がある。さらに何をすればリーダーシップを発揮したと言えるかにも統一した見解がない限り、分析に用いることはできないと考える。従って、次年度以降の卒業生アンケートに向けて、質問文を見直す必要があるだろう。

今回の「学修成果関連」の20問のうち、達成度90%を超えた項目はQ16「世の中の多様性に対する認識を深めた」(90.5%)、およびQ17「他者への敬意を高めた」(91.5%)であった。前者の「多様性」については、DPの観点から見ると5の「地球市民的意識を有し、グローバルな問題に取り組み、多文化共生社会の形成を担う力を身につけることができた」が最も直接的に関わる学修成果であると想定されるが、Q20「サービスマナーを通して社会奉仕の精神を理解した」の達成度はあまり高くない(68.4%)。ということは本学の学生は必ずしも「サービスマナー」に直接に従事せずとも、本学のカリキュラムの中で様々なことを学ぶ中で人間の多様性について理解を深めることができているということになる。これは本学に

とって、非常に重要な点である。また後者の「他者への敬意」は、2018 年度卒業生アンケートの学修成果 20 項目の中で、最も達成度の割合が高かったのだが、これについても同様のことが言えるかもしれない。想定される DP1「人間の尊厳への敬意、他者愛、献身の心を深く理解するとともに、他者とのかかわりの中で自己形成を行い、人間関係、共同体を構築する力」を、学生は「人間学Ⅰ」だけではなく、本学のカリキュラム全体を通した学びの中で修得していると考えることができる。